



☆会長あいさつ☆

先日、『第67回日本PTA全国研究大会』、『第45回日本PTA近畿ブロック研究大会』が「兵庫大会」として2日間に渡り開催され、西落合中学校PTA役員として参加しました。初日は兵庫県内の10カ所の会場に分かれての分科会があり、私たちが参加した分科会では、「防災教育」についてでした。地震・津波・洪水・台風等の自然災害から、火災・交通安全・感染症・不審者対策等、事故や事件に関することで広い範囲でのお話でした。変化の激しいこれからの社会を、個人個人が「生きる力」を育むことが大切になってくるとのことでした。

2日目の全体会では、北は北海道から南は沖縄までの学校園PTA役員の方々8,000人以上が参加し、メンタリストDaigo氏を講師にお迎えしての講演でした。演題は「子育ては、心理学でラクになる」でした。その中で、「子どもを変えようとするのではなく保護者である自分自身を変える。その姿を見せることで、その意志力が子どもに感染する。」というお話がありました。私もこんな子どもになってほしいと願うだけではなく、まずは自分がチャレンジをしていこう！と思いました。

☆校長先生のお話☆

心配された熱中症や水の事故もなく2学期の始業式を迎えられたことを心から嬉しく思っています。1学期の終業式の日、子供たちに「この夏を境に立場が変わる人がたくさんいる。」という話をさせてもらいました。3年生の運動部の人は部活動を引退し、いよいよ自分の希望する進路先に向かって本気で取り組まなければならないようになります。2年生はいよいよいろいろな場面で自分たちが主役になって頑張らなければならない時期になります。1年生は見習い期間も終わり2年生とともに本格的に部活動や学校生活、行事に取り組むこととなります。それぞれ立場が変わる中で、一回りも二回りも成長してくれることを願っています。

また、2学期に行われる文化祭では、ささやかではありますが、西落合中学校創立40周年記念式典も計画しています。体育会とともに感動的な行事にできたらと思っておりますので、ご支援ご協力よろしく願いいたします。

☆各学年の様子☆

1年生

夏季授業日に登校してくる41回生の姿を見て、充実した夏休みを送ることができたのだと感じました。9月には初めての体育会があります。1年生らしく元気に取り組んでほしいと思います。

2年生

夏季授業日は、元気な姿を見ることができました。運動部では、夏休みから活動の中心となり、数々の大会での活躍を聞いています。2学期も元気に、まずは体育会で40回生らしさを存分に発揮してもらいたいです。

3年生

2学期が始まりました。夏休み明けの39回生は部活動を引退した生徒も多く、去年より色白になり、大人っぽくなったように見えます。2学期には、大きな行事が二つあります。そのうちの一つである体育会が9月にあります。夏休みから体育委員を中心に全学年演技に向けて頑張ってきました。この体育会が39回生にとっては最後の体育会になります。すべての演技にベストを尽くし、さすが最高学年といわれるような感動を皆様にご伝えたいと考えております。今学期もご支援ご協力をお願いいたします。

次回運営委員会 10月9日(水) 17:00~

校長の独り言、裏面に掲載しています。

専門部からの報告

- 愛護部… ・毎年、須磨パティオ・名谷駅周辺で行っていた夏休みの見回りを、今年度は神の谷夏祭りで行いました。暑い中、ご参加ありがとうございました。
・2学期もあいさつ運動を行います。今回は10/1(火)です。申し込みをされていない方も参加できますので、ご協力をよろしくお願いいたします。
- 文化部… ・7月のカーテンクリーニングにご協力いただきありがとうございました。
体育会では受付横にて制服等リユースの受付BOXを設置しております。在庫数が不足していますので、卒業生の方にもお声かけいただき、ご協力よろしくお願いいたします。(ご家庭でのお洗濯で構いません。)
- 全学年… ・2学期も花一輪キャンペーンの募集にご協力いただきありがとうございます。9/20(金)より開始しますのでよろしくお願いいたします。(お手伝いをお願いする方にはお子様を通じてお手紙をお渡ししますので、日時をご確認の上、ご来校くださいますようお願いいたします。)
・11月の学校公開デー受付の募集にもご協力ありがとうございます。(学校公開デーのお手紙は10月にお渡しします。)

その他の報告

☆神の谷夏祭り (8/3)

ジュース販売(お菓子釣り付)を行い、大盛況のうちに終了しました。
今年もたくさんの中学生ボランティアが参加してとても頑張ってくれました。



体育会 PTA 競技参加のお願い

今年は「スリッパ飛ばし」をします。
保護者の方の参加をお願いします。参加希望の方は、受付に声をおかけください。
(受付は、人数が集まり次第締め切ります。)
*参加賞を用意しています。奮ってご参加ください。

☆簡単なルール☆

- ・10名で予選を行います。(3~4組を予定しています。)
- ・片足に履いたスリッパを力いっぱい飛ばしていただき、計測した後、上位3名が予選通過となり、決勝戦へ進出していただきます。



体育会当日 ご協力のお願い

- ☆「ひとり一役運動」でパイプいす片づけに応募された方は、閉会式終了後、体育館入り口前に集合してください。 *ぞうきんはこちらでご用意いたします。
- ☆観覧される保護者の皆さまは、使用されたパイプいすは体育会終了後、各自で体育館前まで運んでくださいますよう、ご協力よろしくお願いいたします。

文化祭展示作品募集のご案内

今年度も文化祭でPTAの方々の趣味や特技を生かした手作り作品を展示させていただきたいと思います。編み物や洋裁、手芸、絵画など手作りでしたらどのようなものでも結構です。詳細につきましては2学期にご案内させていただきたいと思いますので、積極的なご参加をお待ちしております。

校長の独り言

「ラグビー ワールドカップ」

2019年ラグビーワールドカップが間もなく開幕する。学生時代、弱小チームではあったが、ラグビー部に所属していた私にとっては、4年に一度のオリンピックよりも熱い気持ちで日本代表の活躍を期待せずにはいられない。日本のラグビーは長きにわたって世界の舞台で屈辱的な負け方を何度も経験した。体格的に大きく見劣りする日本は、前半何とか善戦したとしても、何度も何度も繰り返される体格の勝る相手との体のぶつかり合いに体力を消耗し、後半は目を覆いたくなるような大差をつけられたスコアになるのが常だった。それは私の学生時代のラグビーと重なるものだった。

ラグビーは、トライとゴールによって得点が入るスポーツではあるが、ラグーマンにとってそのトライやゴール以上に尊いプレーとされているのがタックルである。ボールを持って突進してくる相手に対して自分の体をぶつけて倒し、前進を阻止するプレーである。体重差があればある程、このプレーは厳しいものになるのは当然のことである。格闘技の多くは体重別で試合が行われるが、ラグビーはそうではない。私のような体の小さなプレーヤーも100kg近い選手に対して真っ向からぶち当たっていかねばならない状況も当然生まれてくるのだ。タックルするにはかなりの勇気が必要で、生半可な気持ちではできないプレーではない。少し大げさに聞こえるかもしれないが、死ぬ気で当たりにいかねば、相手を倒すことはできないのだ。

前回の2015年イングランドで行われたワールドカップで日本は奇跡を起こした。優勝候補の一角である南アフリカを相手に勝利を収めたのである。私はその試合を見ながら涙を抑えることができなかった。屈強な相手に次々に自分の体を犠牲にしてタックルする姿、体力を消耗しながらも何度も何度も立ち上がり、次々に相手選手に飛び込んでいく日本代表の勇姿に感動せずにはいられなかった。「ラグビーはルールがよくわかんない。」という人も多いと思うが、ぜひ、この機会にラグビーに興味を持って観戦してもらいたいと思っている。

スポーツに甲乙をつけるつもりはないが、その魅力に取り憑かれるに違いない。



「うちの学校が甲子園に出ました」

スクールカウンセラー

今年3月のPTAだよりに書いたように、高校には2次募集で仕方なく入りました。その上、校則が厳しくスパルタ教育も好きになれず、早く卒業して大学に行きたい、できればこの高校に通っていたことを記憶から消したいとも思っていました。

ところが、今年8月に久しぶりに西東京代表として甲子園に出場することになり、これまで5回出場して一度も勝っていないので、いつのまにか今度こそはという気持ちになっていました。1回戦はオープンキャンパス当日でしたので、その仕事の合間にスマホで試合経過を見ていました。後半驚異の逆転劇で勝利すると、大学の教え子から「先生、良かったね、もうすぐ校歌だよ。」とLINEが入りました。不思議なことに何十年も歌っていない校歌がスラスラと口から出てきて、自分ながら驚いてしまいました。

でも、ここでは「中学や高校は規則づくめで嫌なこともあるかもしれないけど、過ぎてしまえば良い思い出になるので、今が嫌でもがんばって生きてください。」というメッセージをお伝えするつもりはありません。なぜ、全国大会に出身校が出たり、自分の出身県が勝ち進んだりすると、自分が出場している訳でもないのに、うれしくなってしまうのでしょうか？考えてみると不思議ですよ。

ところで、「うちの学校」とか「うちのクラス」といった言い方をしませんか？私たちは、自分が所属していると感じると、その集団を「うちの〇〇」と言います。心理学ではこの集団を内集団(ないしゅうだん)と呼び、所属感を持たない集団を外集団(がいしゅうだん)と呼びます。そして、人間は内集団には愛着や好ましさなどプラスの感情をもち、外集団には競争心や敵意などマイナスの感情をもつと言われています。そのため「うちは優れていて、相手は劣っているんで、うちは相手に勝たないといけない」と思ってしまうのです。こうした身びいきを内集団バイアスといいます。

内集団と外集団を意識させ競わせることによって、いい成績を出せることがありますので、一概に競うことが悪いとは言いませんが、「相手には負けられない」という気持ちがあまり強くなると、それが一人歩きしてしまい、いつのまにか相手に強い敵意すら抱きかねません。

秋はスポーツや芸術の季節で、〇〇大会や〇〇コンクールが数多く行われます。相手に負けないぐらい努力しようということは大切ですが、「うちの」結果や努力だけでなく、「相手の」結果や努力に対しても拍手を送られる気持ちもちたいものです。大人の側が「〇〇には負けるな!」という気持ちになってしまっただけは本末転倒です。とはいえ、かくいう私も出身校に対する内集団バイアスを受けてしまったようですが。

2学期もよろしくお願ひします。本日以降、9月は26日、10月は10日、17日(午前のみ)、24日、31日に相談をお受けします。お電話の事前予約は教頭(078-791-8444)に、当日予約はSC(090-8379-3709)に、メールは事前当日予約ともnishiochiai_sc@yahoo.co.jpにお願ひします。

